



2018年2月28日発行



今回の紙面から（ページと内容）

第11回国際春季フォーラムのご案内	1
第36回大会のご案内	1
大会優秀発表賞審査結果報告	1
(Student) Workshopの企画募集	2
終身会員の登録申請について	2
会長・理事会・評議員会より	2
編集委員会より	4
大会運営委員会より	5
広報委員会より	6
学会賞委員会より	6
日本英語学会2017年度収支中間報告書	7
日本英語学会賞と日本英語学会新人賞の募集	8
事務局より	8

会員の方は奮って研究発表にご応募下さい。応募締切は**2018年4月1日(日) 24時(必着)**です。応募の際は、学会ウェブサイト「研究発表応募規定」欄 (<http://elsj.jp/meeting-kitei/>) 掲載の同規定をご確認下さい。「大会優秀発表賞」への応募は**修士課程在籍者及び、修士課程修了後10年未満の方が対象となりますので、奮ってご応募下さい。なお応募規定違反の原稿が見受けられますので、規定の内容をよく読み、遵守して下さいますようお願いいたします。**そのうえで、**必ず同規定指定のアドレス宛に、発表内容と研究発表応募用紙(Excelファイル)を締切日時厳守にてご送信下さい。**

第36回大会においても「親と子の部屋」を設置いたします。詳細は、今後学会ウェブサイトや8月発行予定のニューズレターでご案内いたします。

第11回国際春季フォーラムのご案内

第11回国際春季フォーラムは次の通り開催されます。

日時：2018年5月12日(土)・13日(日)

場所：北海道大学札幌キャンパス

(〒060-0808 北海道札幌市北区北8条西5丁目)

詳細については、同封のプログラムをご覧ください。なお、今回のフォーラムも書籍展示を行う予定です。また、土曜日夕刻に開催される懇親会の参加費は2,000円です。

第36回大会のご案内

第36回大会は次の通り開催される予定です。

日時：2018年11月24日(土)・25日(日)

場所：横浜国立大学

(〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-1)

大会優秀発表賞審査結果報告

第35回大会では、大会優秀発表賞について、審査希望者を対象に査読段階の点数による一次審査と、大会当日の発表に対する二次審査が行われました。審査結果は12月に開催された大会運営委員会で審議され、中島崇法氏(東北大学大学院)「厳密循環性再考：ラベル付けの観点から」と本多正敏氏(筑波大学大学院)「否定倒置と名詞句内の情報構造に対する示唆」に大会優秀発表賞を、田中祐太氏(名古屋大学大学院)「動詞end upの歴史変化とPredPの出現」に大会優秀発表賞(佳作)を授与することが決まりました。

中島氏の発表は、ラベル付けの観点から厳密循環性を再考することにより、A移動とA'移動の間や項と付加詞の間に見られる再構築効果の非対

称性を説明しようとするものです。審査委員からは、残される問題を踏まえた上で、複雑なデータを根本的に新しい方法で分析しようとしている点が高く評価されました。また、説明の中で用いられている操作についての独立した根拠を示すなどして、内容をさらに発展させられる可能性があるという意見も付されました。

本多氏の発表は、否定倒置現象の分析を通じて、文と平行して名詞句内にも強調の情報焦点を表す位置が存在することをカートグラフィーの枠組みで論じるものです。審査委員からは、広範囲のデータや先行研究を踏まえて堅実な分析を行おうとしている点や、質問に対して丁寧に応答している点が高く評価されました。また、独自の提案の部分により重点を置いて説明することができれば、さらに良い発表になるであろうという意見も付されました。

田中氏の研究は、動詞end upの補部が、一種の文法化を経てPred(ication)Pになったと主張するものです。歴史コーパスCOHAを用いて、補部がPP、NP、AP等から命題的なPredPになった経緯を、整った提示をしながら説得的に発表していました。変化を遂げた証拠を現代英語コーパスCOCAから挙げており、自説に対して検証的でもありました。言語資料の時代をさらに遡れば、研究の発展の余地もあります。

国際春季フォーラムについても第9回国際春季フォーラムから優秀発表賞の審査が行われています。5月開催の第11回国際春季フォーラムの審査結果は7月中旬に学会ウェブサイト上で公表される予定です。

(Student) Workshopの企画募集

日本英語学会では、会員の自主的な企画・運営により、特定のテーマに関する発表と自由な討論をしていただく場として、ワークショップ/スチューデント・ワークショップ企画を例年募集し

ています。第36回大会では、11月24日(土)の午前9時30分から11時45分までをワークショップ/スチューデント・ワークショップにあてる予定です。

企画・運営をご希望の方は、学会ウェブサイト「秋季大会ワークショップ」欄 (<http://elsj.jp/workshop/>) 掲載のワークショップ企画募集案内をご確認のうえ、**2018年3月31日(土) 24時まで**に**必着にて**、同案内指定のアドレス宛に企画書とワークショップ応募用紙(Excelファイル)を送信して下さい。

終身会員の登録申請について

今年度より、終身会員の登録申請を受け付けています。終身会員は、満56歳になった年度から10年間、会費を全納した会員を有資格者とし、所定の申請書を提出し、終身会費3万円を支払うことで認められます。終身会員の方には、EL、JELS、ニューズレターなどが送付されるほか、秋の大会および国際春季フォーラムの懇親会に無料で参加していただけます。また、すでに現在までに上記の資格を満たしている会員がおられることをふまえ、当面の経過措置として、満56歳から12年以上の会費を納めている場合には終身会員費を減額または免除します。終身会員に関する規定等については、学会ウェブサイト上にある新着情報、またはトップページの「入会申し込み」から「終身会員登録手続きについて」という項目をご覧ください。なお、登録申し込みは、4月1日から4月25日の間に受け付けます。

会長・理事会・評議員会より

2017年11月17日に東北大学で第75回理事会、及び第35回評議員会が行われました。それぞれの冒頭で、伊藤たかね会長から学会の活動をより活発にすることで学会を会員にとってより魅力のある

存在にしたい、そのために、まずは理事だけでなく評議員の先生方に、これまで以上に活発に学会活動に貢献していただきたい、という趣旨の発言がありました。具体的には、各種議案について評議員会でも十分に協議すること、また評議員の先生方に理事とともにワーキンググループ等に加わっていただくなど、実質的に学会運営に関わっていただくようにしていくことなどが提案されました。理事会では、これまでと同様、予定時間を超えて活発に協議が行われ、評議員会でも以下にご紹介する内容について活発な意見交換が行われました。

◇ 寄付金のご報告

市河賞の授賞が終了したことを受け、旧市河賞委員会委員有志の方々から、同賞の精神を引き継いだ研究奨励のために多額のご寄付をいただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。11月17日に行われた理事会と評議員会で本件が報告され、理事会では、今回の寄付金と前号で報告された中島平三氏からの寄付金のそれぞれの用途を検討するために、長谷川信子理事をまとめ役として理事・評議員で構成されるワーキンググループを作ることが決定されました。7月に行われる次の理事会での提案を目指して、現在、このワーキンググループで協議が行われています。

◇ 会計

11月17日に開催された理事会と評議員会において、日本英語学会2017年度収支中間報告が承認されました。「日本英語学会2017年度収支中間報告書」は、7ページに掲載されておりますので、ご覧下さい。

◇ 評議員の任期の変更

11月17日の評議員会、及び理事会で、英語学会会則第14条第2項「評議員の任期は2年とし、引続き再任を妨げない。ただし、就任時に満65歳以下でなければならない。」の任期に関する規定を

1年に改定することが、伊藤たかね会長より発議され、承認されました。この規定は、本年4月1日より適用されます。

◇ 会長選挙の検討について

会員の意志をより明確に会長選挙に反映したいとの観点から、会長選挙の在り方を検討するワーキンググループを作り検討することが会長から11月17日の理事会で提案されました。このグループは福井直樹理事をまとめ役として理事・評議員を構成員とし、次回7月の理事会での審議を目指して原案作りを行うことが、11月17日の理事会で承認されました。本年10月に会長選挙が予定されていますが、7月の理事会で新方式が承認されると、新たな方法で会長選挙が行われることとなります。

◇ 役員の異動

(顧問就任、理事選挙結果報告を含みます)

・顧問 (就任)

前会長の大庭幸男氏(関西外国語大学)の顧問就任が11月17日の理事会で審議され、全会一致で承認されました。大庭氏は、大会準備委員、編集委員、広報委員長、評議員、理事を歴任され、2013年4月1日から2017年3月31日まで会長を2期務められました。会長職にある間、海外への発信やISLEなど海外との交流を熱心に進められ、その結果、学会として昨年4月の春季大会にISLE前会長のOlga Fischer氏(アムステルダム大学)をゲストスピーカーとして招きました。また、今年度より募集が始まった終身会員制度の創設にも尽力されました。

・理事 (退任)

2018年3月31日で任期満了となる以下の6名の理事が退任されます。

家入葉子氏(京都大学)、伊藤たかね氏(東京大学)、大室剛志氏(名古屋大学)、長谷川信子氏(神田外語大学)、松本曜氏(国立国語研究所)、丸田忠雄氏(東京理科大学)

・理事（新任）

郵送による理事選挙が行われ、10月28日に選挙管理委員（杉岡洋子氏、鷲尾龍一氏）による立ち会いのもと開票が行われ、下記の6名の新理事が選出されました。2018年4月1日から2年間の任期（再任有り）で理事をお務めいただくこととなります。

岡田禎之氏（大阪大学）、金子義明氏（東北大学）、高橋英光氏（北海道大学）（1期のみ）、藤田耕司氏（京都大学）、遊佐典昭氏（宮城学院女子大学）、吉村あき子氏（奈良女子大学）

（五十音順）

なお、杉岡洋子氏（慶應義塾大学）、西岡宣明氏（九州大学）、廣瀬幸生氏（筑波大学）、福井直樹氏（上智大学）、鷲尾龍一氏（学習院大学）は、理事2期目となります。

・編集委員会委員長（退任）

菊地朗氏（東北大学）が2017年11月30日付で退任されました。

・編集委員会委員長（新任）

西岡宣明氏（九州大学）が2017年9月1日付で編集委員長に就任されました。任期は2019年11月30日までです。

・大会運営委員長（退任）

本間伸輔氏（新潟大学）が2017年12月14日付で退任されました。

・大会運営委員長（新任）

鈴木亨氏（山形大学）が2017年12月15日付で大会運営委員長に就任されました。任期は1年間です。

ご退任の皆さま、これまで日本英語学会の運営にご尽力くださり、誠にありがとうございました。

◇ 会員数の変動について

現在の会員数は1313名（2月15日現在）となりました。内訳は、学生会員42名、通常会員1114名、維持会員107名、海外会員13名、終身会員20名（うち顧問7名）、賛助会員17団体となっています。

◇ 海外学会との交流について

ELSOK（English Linguistics Society of Korea）との交流の一環として、Hee-Cheol Yoon氏（Duksung Women's University）を第11回国際春季フォーラムにお招きします。また、今年5月25日に予定されているELSOKの大会に研究発表者として会員を派遣する予定で、現在人選を進めています。

編集委員会より

◇ *English Linguistics* 第34巻1号（2017年秋号）の刊行について

*EL*第34巻1号（秋号）が刊行されました。特別企画招聘論文（Invited Article）1編、Article 1編、Review 13編が掲載されています。刊行が遅れ、会員の皆様には多大なご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

◇ *English Linguistics* 第34巻2号（2018年春号）の刊行予定について

*EL*第34巻2号（春号）は2018年3月に刊行される予定です。Article 3編、Brief Article 2編、Review 3編が掲載される予定です。

◇ *English Linguistics* 第35巻1号（2018年秋号）の応募論文について

2017年9月20日締切で投稿された一般論文の総数は5編で、投稿部門と投稿分野の内訳は、Article 2編（Syntax 2）、Brief Article 3編（Syntax 2, Semantics 1）でした。また、第34巻2号に投稿されて「4ヶ月書き直し」と判定され、第35巻1号に再投稿された論文の総数は5編で、Article 3編（Syntax 2, Semantics 1）、Brief Article 2編（Syntax 2）でした。

以下の表は、懲慥によるReview 4編と前号より「4ヶ月書き直し」として再投稿された論文5編も含めた、第35巻1号の審査状況です（2018年2月5日現在）。

	応募数	採用	不採用	取り下げ	審査中
AR	2	0	1	0	1
BA	3	0	2	0	1
N&D	0	0	0	0	0
RA	0	0	0	0	0
Review	4	1	0	1	2
4ヶ月書き直し					
AR	3	3	0	0	0
BA	2	1	1	0	0
合計	14	5	4	1	4

◇ **English Linguistics 第35巻2号 (2019年春号)**
への投稿について

2019年3月発行予定の*English Linguistics*第35巻2号の応募締切は、2018年4月1日(日)24時(必着)です。応募される方は、学会ウェブサイトに記載されている投稿規定および書式に関する注意事項を通読され、最新版の規定に則って作成し、ネイティブ・チェックを受けた原稿をご投稿くださいますよう、お願い申し上げます。

◇ **2017年度 EL論文賞について**

2017年度EL論文賞について、2017年度は2016年9月20日締切のEL第34巻1号(2017年10月刊行済み)と2017年4月1日締め切りのEL第34巻2号に投稿され、すでに採用となったAR 4編、BA 2編合わせて6編について、先ず、分野別一次審査を行いました。審査対象となった論文の分野はSyntax 6編です。一次審査結果を踏まえ、EL論文賞候補論文を2編に絞り込み、現在「最終選考委員会」で、最終選考中です。最終選考で決定された2017年度EL論文賞は、2018年3月中に受賞者にお知らせします。受賞論文の執筆者は、EL投稿時の年齢(あるいは研究歴)に即して、2018年度の日本英語学会賞(論文)と日本英語学会新人賞への応募の有資格者となります。

◇ **preprintの公開について**

*English Linguistics*への投稿原稿(preprint)を個人のウェブサイト等に掲載することに関してガイドラインが定められています。詳しい内容については、学会ウェブサイトをご覧ください。

大会運営委員会より

◇ **大会運営委員会の構成**

昨年12月より大会運営委員会の構成は次のようになりました。

(委員長) 鈴木亨氏

(副委員長) 松岡幹就氏

(委員) 島田雅晴氏(国際春季フォーラム実行委員長)、米山聖子氏(国際春季フォーラム実行副委員長)、都築雅子氏、秦かおり氏、村上まどか氏、窪田悠介氏、中村太一氏、成田広樹氏[以上留任]、五十嵐海理氏、石黒太郎氏、遠藤智子氏、木村宣美氏、柚原一郎氏[以上新任]

◇ **第36回大会シンポジウム企画について**

現在準備が進行中です。詳しい内容は『え〜ごがく』69号でお知らせいたします。

◇ **JELS 35について**

JELS 35はCD-ROM化して今回のニューズレターに同封しております。

◇ **第35回大会の報告**

第35回大会は、2017年11月18日(土)・19日(日)の両日、東北大学にて開催されました。本大会では、公開特別シンポジウム1件、シンポジウム5件、研究発表37件、ワークショップ4件、スチューデント・ワークショップ1件が行われました。大会2日間で351名の参加者があり、盛会裡に終えることができました。今回も各出版社から書籍の展示をしていただき、本大会では22社の展示がありました。大会運営を支えて下さった開催

校の先生方、参加された会員諸氏のご協力に対して、心より御礼申し上げます。また、今回も大会運営に関する貴重なご意見を多数いただきました。誠にありがとうございました。今後の大会運営の参考にさせていただきます。

広報委員会より

◇ ELバックナンバーのオープンアクセス化と画面デザインの変更について

広報委員会では、刊行後2年以上経過したELのJ-STAGE 3（科学技術情報発信・流通総合システム）でのオープンアクセス化に取り組んでいます。2018年1月末日現在、EL第30巻2号（2013）まで公開されており、発行後2年を経た巻号について今後も同様に作業を進めていく予定です。以下のURLをご参照ください。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/elsj>

なお、2017年11月25日より、上記ページの画面デザインが変更となりましたが、URLは変更なく、これまで通り論文をダウンロードすることが可能です。

◇ EL最新刊PDF版の会員向け公開について

2016年2月より本学会ウェブサイトにおいて *English Linguistics Online* の名称でEL最新刊のPDF版論文を公開しています。以下のURLをご参照下さい。

http://elsj.jp/english_linguistics-eng/english-linguistics-online/

今年も、第34巻2号が刊行されたのち、EL第34巻1号・2号の掲載論文をアップロードする予定です。なお、EL OnlineのPDFへのアクセスには、印刷版ELの2号の裏表紙内側に印刷されるIDとパスワードが必要となります。

学会賞委員会より

◇ 2017年度学会賞選考結果報告

日本英語学会賞は、学会賞（著書）、学会賞（論文）、新人賞の3部門で応募・審査を行っています。今年度の選考は、2017年度学会賞委員会（高橋英光委員長、杉岡洋子副委員長、菊地朗編集委員会委員長、西岡宣明編集委員会副委員長、磯野達也事務局長）のもとに実施されました。2017年4月1日から5月31日の応募期間内に、学会賞（著書）には著書2編、新人賞には2016年度EL論文賞受賞論文1編が応募されました。学会賞（論文）には応募がありませんでした。

学会賞（著書）については6月上旬から11月上旬まで審査が行われ、新人賞については6月上旬から8月末まで審査が行われました。その結果、2017年度学会賞（著書）は、杉崎鉦司氏（関西学院大学教授）の『はじめての言語獲得 普遍文法に基づくアプローチ』（2015年、岩波書店）に、2017年度新人賞は、小池晃次氏（愛知淑徳大学講師）の“The Development of Negative-Initial Constructions in the History of English”（2016年、EL第33巻2号）に授与することになりました。選考結果は2017年11月18日（土）に開催された日本英語学会第35回大会の総会において報告され、そこで授賞式が行われました。なお、選考委員を務めていただいた方々の氏名はEL第35巻1号に掲載される学会賞委員会報告に記載され公表されます。

受賞作の概要と評価は以下の通りです。

学会賞（著書）受賞著書

杉崎氏の著書は、生成文法の枠組みで言語獲得を論じたものであり、言語知識の性質を明らかにする課題と言語獲得のプロセスを明らかにする課題を有機的に結びつけている点と、実証性と論証性の両面に優れ、生成文法の思考法と言語獲得実験の実施方法について初学者にもわかるような工夫がなされている点が高く評価されました。

新人賞受賞論文

小池氏の論文は、英語史における否定倒置文の変遷を極小主義的枠組みの下で統一的に分析し、OEでは*ne-initia*構文が存在したが現代英語においては対応する*not-initia*構文が消失した事実を豊富な資料に基づき実証的に論じている点と、関連現象の分析の水準が高い点から新人賞の授賞に値すると判断されました。

日本英語学会賞と日本英語学会 新人賞の募集

2018年度の日本英語学会賞（著書）、日本英語学会賞（論文）、日本英語学会新人賞の応募方法と応募期間は以下の通りです。

・**応募方法**：必要な書類を日本英語学会ウェブサイトよりダウンロードし、必要事項を記入のうえ下記の指定メールアドレスに送信して下さい。

日本英語学会賞（著書）：award-b-obo@kaitakusha.co.jp

日本英語学会賞（論文） および日本英語学会新人賞：

award-a-obo@kaitakusha.co.jp

・**応募期間**：2018年4月1日より4月15日まで（応募締め切り日が今回から一月ほど早くなっています。）

・**その他**：日本英語学会のウェブサイトにあります応募規定を熟読のうえご応募下さい。不明の点は事務局宛（elsj-info@kaitakusha.co.jp）に電子メールにてご連絡下さい。

事務局より

◇ 会費納入のお願い

会費未納の方は、学会支援機構から送られます振込用紙で納入して下さいますようお願いいたします。2年間滞納されますと、会則第8条第4項により、自動的に退会扱いになりますので、ご注意ください。

◇ 学生会員登録（継続会員）について

2018年度に学生会員として登録（2017年度からの継続）を希望される方は、以下の要領でお申し出下さい。申告期間の終了後に2018年度の会員種別を確定し、会費請求をいたします。

学生会員登録は年度ごとの登録で、自動更新ではありません。申告期間内にお申し出がない場合には、通常会員として会費請求がなされますのでご注意ください。特に年度末の2月・3月に学生会

員として新入会された場合も、新年度には改めて申告をしていただくようお願いします。

・申告資格：次の①もしくは②の条件を満たす会員
①大学など学校の「学生」の資格をもつ会員。

②研究生・聴講生・専任の勤務を持たない大学院修了者・PD、および外国の大学の日本校の学生。

・申告期間：2018年4月1日～4月25日（必着）

・申告方法：会員番号・氏名・4月以降に在籍する学校の名称を記した用紙に、4月以降に学生であることを証明する以下の(1)から(4)のいずれかの書類を添付し、事務局宛（宛先は奥付参照）に「学生会員登録希望」と必ず朱書きのうえ、郵送して下さい。

(1) 在学する学校の発行する在学証明書

(2) 学生証のコピー

(3) 進学する学校・課程の合格通知書のコピー

(4) (元)指導教員(所属明記)の署名(または捺印)と証明の言葉

専任の勤務先を持たない大学院修了者は、(4)の方法により書類を提出して下さい。申告されたのちに変更が生じた場合や不明な点がある場合には、事務局（elsj-info@kaitakusha.co.jp）にご連絡下さい。

◇ 学生会員登録（新規入会）について

年度途中で学生会員として新規に入会される場合には、上記の学生会員登録と同じ要領で申し込むことにより、申告期間にかかわらず、いつでも学生会員として登録ができます。この措置は、新規入会者のみに認められるものですのでご注意ください。

詳しくは、学会ウェブサイトをご確認下さい。

◇ EL、JELSへの論文投稿に関するお願い

EL、JELSに論文を投稿される際には、日本英語学会ウェブサイトに掲載されております「*English Linguistics* 投稿規定」「JELS投稿規定」をよくお読みいただき、規定を遵守したうえで投稿されるようお願いいたします。編集委員会ある

いは開拓社宛に投稿・通知する場合には必ず指定されている宛先のアドレスに送信して下さい。開拓社から送られる受領確認用の自動返信メールアドレスに送信されても受理できません。

ELに関して、編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には、メールの件名およびメール本文には「*English Linguistics* 投稿規定」ページ末尾の「投稿論文のEL掲載までの手順案内」の表で指定されている情報を必ず明記して下さい。

JELSや所属機関のworking papers等に掲載された研究（の一部）を発展させてELに投稿する場合には、論文審査が公平で厳正に行えるよう、投稿者自身のこれまでの関連する研究論文の情報は必ず記載して下さい。なお、相互に匿名による審査体制であることに留意し、本文等でそれらに言及するときには、3人称表現をご使用下さい。

◇ EL掲載論文の再録やレポジトリへの登録に関するお願い

ELに掲載された論文の著作権は日本英語学会にあります。そのため、ELに掲載された論文を他のジャーナルや著書に再録する場合には、本学会の許可が必要です。再録をご希望の場合には、事務局宛（elsj-info@kaitakusha.co.jp）にお知らせ下さい。

また、各大学で「学術情報レポジトリ」や「電子アーカイブ」にELに掲載された論文を登録することを希望される場合、事務局までお知らせ下さい。日本英語学会では、発行後2年以上経過した論文の登録をお認めしています。無断での再録・登録は著作権侵害となりますので、ご注意ください。

◇ JELS掲載論文の再録・登録に関するお願い

JELS掲載論文についても、再録および学術レポジトリや電子アーカイブへの登録や個人のウェブサイトへ掲載の場合には、EL掲載の論文と同様に、事前に事務局まで（elsj-info@kaitakusha.co.jp）お申し出下さい。

JELS掲載論文については、発行後1年を経過したものについては、申し出があれば再録や学術レポジトリなどへの掲載をお認めしています。

◇ EL公費購入のお願い

ご所属の大学図書館や研究室でELを購入されていない場合には、ぜひ購入の手続きをしていただきたく存じます。ELがより多くの研究者に知られるだけでなく、本学会の運営にも益するところがありますので、よろしく願いいたします。

◇ 電子版投稿・審査体制に関連するお願い

研究発表応募、ELへの投稿、および学会賞・新人賞への応募の電子化に伴い、学会から会員の方々への連絡は電子メールで行っています。所属の異動等に伴い連絡用アドレスの変更がある場合には、学会にもお知らせいただきますようお願いいたします。

なお、事務局あるいは各委員会からメールで連絡を差し上げた際の返信につきましては、通常1週間の余裕をみてお願いしておりますので、その期間内にご返信をいただけますようご協力下さい。

◇ 連絡先等変更のご連絡のお願い

メールアドレスや住所等の連絡先、及び所属に変更が生じた場合には、速やかに学会支援機構にご連絡下さい。連絡方法については、学会ウェブサイトをご覧ください。

編集後記

東北大学での第35回大会には、350名余の皆さまに参加いただき、ありがとうございました。活気のある仙台の町を楽しんでいただけたのではないかと思います。事務局としては至らない部分も多々あり、反省しているところですが、開催校の先生方には宿泊場所の手配も含め、大会終了まで様々な面でご配慮とご尽力をいただきました。心

より感謝申し上げます。今年の第36回大会は横浜国立大学での開催で、4年ぶりに関東地区で行われることになります。秋の横浜で皆さまにお目にかかれることを楽しみにしています。

今年、11回目となる春季フォーラムは北海道大学で開催されます。ELSOKのHee-Cheol Yoon氏の研究発表、春季フォーラムとしては珍しいワークショップが2件、そして4件の講演、国内外からの約25件の研究発表とポスターセッションが予定されており、多くの皆様のご参加をお待ちしています。

今年度いただいた2件の寄付金の使途については、幅広い会員の皆様の一層活発な研究活動に活用されるよう活発な協議が行われています。評議員の任期の改定や会長選挙制度の見直しの他、ウェブサイトも委託している業者が機能の拡幅を予定しています。理事会や評議員会、運営委員会ではConference Handbookのダウンロード化が議論され、ニューズレターのメール配信も事務局では検討されています。会員の皆様のご意見も気になるところですが、学会そのものがハードの面でもソフトの面でも、この数年で変化していく時期に来ているようです。力不足の面もありますが、事務局一同今後も会員の皆様の研究活動を支えていけるよう尽力する所存です。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

(T.I.)

2018年2月28日発行

編集・発行 日本英語学会
代表者 伊藤 たかね
発行所 日本英語学会
<http://elsj.jp/>

〒113-0023

東京都文京区向丘1-5-2

開拓社内

電話 (03) 5842-8900